

●六踏園創立 100 周年記念式典

日時：令和 7 年 5 月 17 日 土曜日 午前 10 時開始

●六踏園創立 100 周年記念事業として以下の取組を行います

- ①創立 100 周年記念式典を成功させる
- ②法人の起こりや歴史的背景を学ぶことでこれからの六踏園の役割を考える
- ③法人職員人材育成システムの確立
(キャリアパス、横割り研修、見学研修、交換研修、シンポジウムの開催等)

●実行委員会よりお知らせ

2025 年 2 月 21 日(金)に第 5 回実行委員会を行いました。

記念式典の招待者、プログラム、会場レイアウト、各施設紹介の確認をしました。

今後も法人職員の皆さんには進捗状況とともに各園の取組について通信を発行してお伝えしていきます。

みなさんで協力して法人 100 周年、そしてその先に向けて取り組んで行きましょう。

【司法保護団体で最も優秀な六踏園へ】

昭和 11 年 10 月、新装の本館・講堂を会場として創立 10 周年記念式が挙行された。多くの来賓の中、検事総長の記念講演が行われた。講演では、「東京、大阪、名古屋に 100 以上の少年保護団体が存在し……少年保護団体の中にある、特に六踏園は、規模、設備、業績において最も優秀なるものでありまして、一般世間におきましては、少年保護事業と言え、直ちに六踏園を連想し、少年保護団体即六踏園という観念さえも行われている程、本園の斯界に占める位置は重要なものであります」(機関紙「六踏」第 69 号、昭和 11 年 11 月 15 日発行)と述べられている。法人の役員構成を見ても、監事に元大審院判事、評議員に検事総長、司法省刑事局長、同保護課長、東京市保健局長、工学博士、顧問に政治家、拓務大臣、貴族院議員、海軍軍医大佐等々錚々たる肩書が連ねている。六踏園はもとより、社会事業全般への理解と支援とに各要人が尽力していたことが伺える。

戦後、中川庫吉は、社会事業功労者として昭和天皇に単独拝謁を賜り、社会事業、教育についての御下問に御進講している。前年の昭和 22 年に紺綬褒章、そして昭和 32 年には藍綬褒賞を授与され、亡くなった後、従六位が追贈されている。六踏園事業の輝きである。

六踏園 理事 石井義久

六踏園創立 100 周年記念事業通信 No.6

令和 7 年 3 月 10 日発行

【100 周年テーマ】

つながり 感謝とえがお

【テーマに込めた思い】

1. 過去から現在そして未来に連なる

時間軸を縦軸にしたつながり

大正 14 年前後から戦前戦後の社会的混乱と東本大教会の激動期、東本大教会を維持するだけでも大変な状況のなか、創設者はじめ歴代の先人先輩職員の方々が社会福祉事業を維持されてきたことへの「感謝」、そして、過去も現在も大切に紡いできた子どもの「えがお」。

過去への「感謝」と「えがお」を忘れずに、現在そして未来へ、「感謝」と「えがお」をつないでいく。

2. 地域の方々とともに歩み・育んできた横軸のつながり

創設以来、土地の提供から施設の維持、そして物資や心情的な子ども達への支援に至るまで、地域の方々に温かく見守られ、支えられ、施設も子ども達も職員も地域の方と共に育まれてきたことへの「感謝」、そこに生まれるみんなの「えがお」。施設に暮らす子ども達の「えがお」だけでなく、地域の皆さんも「えがお」になれる施設や地域づくりを行ってきた。そして、子どもひとり一人の笑顔、地域の皆さんと共に笑顔で暮らせること、その毎日がつながっていくことを今後（未来に向けて）も目指していく。

未来に向けて「感謝」と「えがお」の糸を紡いでいきましょう！

～つなげよう！地域の力！～ちょこっと、つどう憩いの『わ』

まんまる（地域交流センター）



《大事にしていること》

- ・本来の居場所に戻るために、誰もが安心してホッとくつろげる第三の居場所づくり（心の充電）。
- ・多様な経験を提供し、チャレンジする心を育てる。
- ・スタッフは人と人、人と社会をつなぐサポーター。
- ・児童福祉に特化した法人の機能や専門性を活かしながら、予防福祉の実践に取り組む。

《想い》

“ぶどうのように世界はみなまるい心で
つながりあっていくのだよ”

みんなまるい優しい心でつながりあっていくことで、世界中のみなが平和になりますように、また地域の方や卒園生・退所者が気軽に集える場所になり、みんながまるくつながって温かな心で過ごしてもらいたい！という想いを込めて。

《基本情報》開所日

月（9:30～13:14～17）水（9:30～11:30/14～16:45）
金（14～16:45）土（9:30～11:30/14～17）

※祝祭日は休館

《100周年を迎えるにあたって》

100年の調布学園の歴史と歩み、地域とのつながりがあったからこそ、まんまるが地域のみなさまに愛される場所に成長することができています。感謝します。

チームまんまる



仕事のおもしろさ：

毎回誰が来るかわからないからワクワクドキドキ。毎回化学反応がおきる。
毎回子どもの可能性がみつかる。

趣味・息抜き： みんなで笑う！！
みんなで一緒に楽しむ（ボードゲーム、ウノパーティ、ボッチャとか）！！



まんまるの
一コマ

詳細 Instagram



あなたにとってまんまるとはどんな場所？ というテーマで利用者の声を聴かせていただきました

○長男は知的障害があるので1人で気軽に遊びに行ける場所が無かったのですが、ふらっと行ける、ほっとできる場所が近所にでき、本当にありがたく思っています。
弟たちもボードゲームで遊んだり、時には1人でじっくり本を読んだり、マイクラの知識をお友達に教えてあげたり。母は日頃の息抜きにコーヒーを飲みながら、子どもたちと交流させてもらっています。また毎月場所を貸していただき、障がい児のダンス教室を開催しています。調布や府中から、多い時には10組以上の親子が集まり、広い空間で楽しく身体を動かしています。さまざまなお友達や大人と交流を持つことができる「まんまる」は我が家では無くては困る存在です。利用者

楽しい場所！お友達も遊べる場所
1人でいけるくらい近くだったらいいのになあ。
いろんな人と遊べるし、見守ってもらえるので、
安心して楽しい場所
＜子どもたちの声＞



○まんまるは、色々な人たちの声を聴くことができる場所。色々な人たちとの会話や関わりの中で、繋がりが生まれたり新たな発見があります。子どもも大人も関係なく「やりたい」「こうしたい」といった声をお互いに聴き合いながら、一緒に考えられる場でもあるからこそ、安心していられる場でもあるなど思いました。自分には無い視点を学ぶことができています。アルバイト

○地域の方や職員と「程よい距離感」で無理なく繋がりが合うことができます。cafeのようでありながらcafeと違うのは、そこに「ゆるやかな」見守りがあり、安心して悩みを相談できることです。日々の子育てのイライラが積もらないように、日々リフレッシュできるみんなの居場所「まんまる」の存在はとても大きいと思います。皐月ままとスタッフ

○ある日のまんまるで、利用者さんが帰られた後、片付けをしながらその日を振り返るなかで、「利用者さんも私たちも、みんな『まあ、いっか』がいいね！」と笑い合ったことがありました。親であること、子どもであること、家族であることに「こうでなければならない」ことは、本当は何ひとつないはず。ここに集う人がありのままの自分を取り戻し、ひとときでも安らいで過ごせる場所であることを願っています。皐月心理療法担当職員 廣内（臨床心理士・公認心理師）

○子どもたちも大好きで安心できる場所
放課後等デイサービススタッフ

実家や友人宅とは別の子どもたちがくつろげる場所
息子とのコミュニケーションであり、親子で遊べる広場
息抜き ほっとできる場所
大人とも子どもたちとも貴重な交流の場
いつもあたたかい愛でいっぱい場所
子育ての悩みも真剣に聞いてくださりアドバイスもらえるので心強い
子どもたちにいろいろな経験をさせてくれる場所
子どもの成長をさせてくれる場所
安心して子どもを行かせられる
なくてはならない場所
何かあったときにお話しできる人がいる心の拠り所
親子で過ごせる居場所
＜保護者の声＞

○調布のみんなの「第2のリビング」のような場所。
ここに集い、語り、木と人のぬくもりを感じ、子どもたちの成長を見守ることができることは、私の喜びです♪
100万人のクラシックライブ
高見 秀太郎

